

登米地域の麦作技術情報 第3号



令和3年6月11日発行
Tel 0220-22-6127

宮城県登米農業改良普及センター
HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 調査ほ及び管内の生育概要

表1 6月7日現在の生育状況

品種	町域	地区	播種日 (月/日)	出穂期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	推定成熟期 (月/日)
あおばの恋	豊里	上谷地	11/14	5/12	66.8	9.3	570.0	6/19~6/24
		(平年値)	11/5	5/9	79.8	8.4	730.0	6/24
シラネコムギ	迫	新花島前	11/12	5/12	64.3	8.2	316.2	6/19~6/24
		(平年値)	11/5	5/13	81.4	8.2	544.1	6/26

*平年値はH28~R2年の5か年平均

上谷地のあおばの恋及び新花島のシラネコムギは、平年を下回る生育量となりました。

出穂期(全茎の50%が出穂したとき)から成熟期までの日数の目安は小麦で45~50日であり、両品種ともに成熟期を6月19~24日と予測しました。コンバイン収穫の適期は成熟期後3日頃からです。ほ場をよく観察して、適期刈り取りに努めましょう。

2. これからの管理のポイント → 小麦の適期収穫と適切な乾燥調製

1) 適期収穫 … 小麦の収穫開始の目安となる子実水分は30%以下です。

麦類は収穫時期が品質に大きく影響しますので、刈取時期の判断を適切に行きましょう。

収穫時期が早い

選別不良、扱胴などの衝撃による
損傷粒の発生及び搬送部の詰まり



収穫時期が遅い

倒伏や穂切れ、鳥害による損失が増える。

- 子実水分30%以下を目安として刈り取り、水分が高めのときは扱胴の回転を落として選別不良や損傷粒の発生を防ぎましょう。
- コンバイン収穫作業の限界基準は、降水量が当日5mm以下、前日15mm以下、前々日25mm以下です。

2) 適切な乾燥・調製 … 収穫後は速やかに乾燥機に張り込み、通風させましょう。

高水分で刈り取った麦を収穫後そのまま放置したり、急激に乾燥させると、発芽率や加工適性が低くなります。

成熟期

- 穂首が黄化
- 子実が褐色
- 指で押さえて乳汁が出ない、口ウの硬さ

3~4日

適期
刈り取り

- 粒が硬くなり、爪で傷つく、力を入れると割れる

4~5日

刈り遅れ

- 穂がかたむく
- 粒は爪が立たない硬さ

図1 刈り取り適期の目安

・乾燥機への張り込み量は最大張り込み量の7～8割、送風温度は50～60℃、平均每時乾減率は1.0～1.2%が目安です。

ただし、子実水分が高い場合は張り込み量6～7割、送風温度を40～45℃とし、乾燥が進んでから通常送風温度に調節しましょう。

- ・子実水分は小麦 12.5%以下、大麦 13.0%以下に仕上げましょう。
- ・篩い目は小麦・大麦とも 2.4mmを基本としてください。

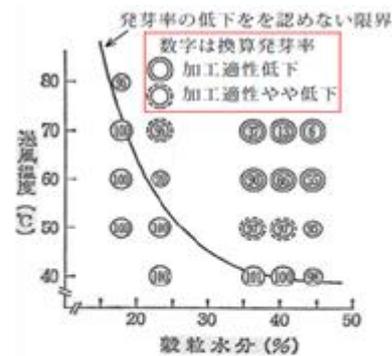


図2 穀粒水分、送風温度と発芽率・加工適性の低下
「みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針（平成19年1月）より」

3. 赤かび病被害粒混入防止の徹底について

1) 赤かび病による被害粒…赤かび病被害粒が1万粒中に5粒の混入で規格外

・赤かび病菌が産出するかび毒、デオキシニバレノール(DON)は人畜に中毒症状を引き起こすため、大麦・小麦ともに赤かび粒（赤かび病等により赤色を帯びた粒）の混入限度が厳しく設定されています。被害粒率が0.05%（1万粒に5粒）以上だと規格外となります。

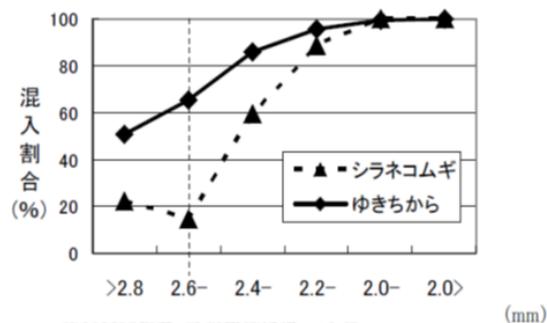
2) 収穫・調製時の対策

- ① **適期収穫:** 収穫時期が梅雨時期と重なり、降雨や多湿により赤かび病が発生しやすくなるので、刈り遅れないよう適期に収穫しましょう。
- ② **発病ほ場では刈り分け:** 湿害などで麦が弱っている部分では赤かび病の発生が多くなります。発病の多い部分は除外するなどの対策をとってください。
- ③ **収穫後は直ちに乾燥:** 収穫物を高水分状態で放置すると、被害粒が増加しやすくなります。収穫後は直ちに乾燥作業を行いましょう。

3) 赤かび粒の除去

・赤かび粒の混入が心配される場合は、大きめの網目で篩いましょう。右図に示されるように、2.6mm程度の篩い目を用いれば罹病粒の混入割合を減らすことができます。（図3）

・赤かび粒は健全粒より千粒重が1～2割軽くなるため、粒厚選別とともに比重選別を行うとさらに効果的です。



注1) H16年産 浦谷現地ほ場 コムギ
注2) 粒厚2.0以下の赤かび混入率を100%とした場合の

図3 篩い目を大きくした場合の赤かび粒の減少傾向
「みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針（平成19年1月）より」

4) 次年度の対策

・早めに耕起し被害残渣（麦わらやこぼれ麦等）は土壌中にすき込む、又はほ場外へ持ち出し、伝染源密度を低下させましょう。

令和3年度 農薬危被害防止運動！！（令和3年6月1日～令和3年8月31日）

「農薬は周りに配慮し正しく使用！」 農薬を知る。理解する。適正に使う。